

参考

【概要】

平成22年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【フラット35利用者編】（第3回）

1. 調査の概要

調査対象期間(平成22年11月～平成23年2月)に民間住宅ローンを借入した方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査(2/16～2/28)を実施し、そのうちフラット35利用者146件について集計を行ったものである。

回答数:146件

2. 調査結果の主なポイント

(1) フラット35を知るきっかけは、住宅・販売事業者が第1位

- ・ フラット35を知るきっかけは、「住宅・販売事業者」が34.9%、次いで、「インターネット」(26.0%)、「金融機関」(12.3%)がベスト3を占める状況が続いている。<p2>
- ・ フラット35以外の住宅ローンを利用された方と比較すると、「インターネット」に加え「新聞記事」「住宅情報誌」「テレビ」「雑誌」等のメディアの影響が引き続き大きい点が特徴となっている。<p2>
- ・ フラット35の利用を決定するに際しても、「住宅・販売事業者」が32.9%、次いで、「インターネット」(21.2%)の影響が大きい状況が続いている。<p3>

(2) 住宅関連の情報を幅広く調べた方は、フラット35を利用している

- ・ インターネットを使って、住宅ローンに関する情報に加えて、「住宅取得に関する優遇策」「住宅取得に関する税制」等と幅広く情報を収集された方は、フラット35を利用されている。<p4>

(3) フラット35を利用した理由は、「将来の返済額を確定」と「金利が低い」

- ・ フラット35を利用した理由は、全期間固定型住宅ローンの特徴である「金利上昇に備えて将来の返済額を確定」が前回調査の47.9%から57.5%に増加し「金利が低い」(57.5%)とともに最も多い。次いで、「フラット35S(優良住宅取得支援制度)を利用したい」が前回調査の42.6%から44.5%に増加し、上位3位を占める傾向が続いている。<p5>